さかいしりつ はるえちゅうがっこう

坂井市立春江中学校

（福井県）

一人一人に
やさしい図書館をめざして

01 はじめに
坂井市紹介　発表概要

02 「一人一人」の読書ニーズを探る
図書もバリアフリーをめざそう

03 プリントディスアビリティと学校図書館
「一人一人」の「本の飢餓」に目を向けて

04 ふくいSDGｓパートナー
学校図書館にできること

05 活動紹介
委員会　地域連携　授業　研修

福井県坂井市立春江中学校

01
はじめに
坂井市紹介　発表概要

福井県坂井市は、福井県の北部に位置している。
東尋坊、丸岡城など北陸新幹線開通とともに観光客も増加。

春江中学校はこの坂井市の南部に位置する。
生徒数660人（令和7年度）の大規模校。

平成28年より「一人一人にやさしい学校図書館をめざして」
というテーマのもと実践と研究を重ねてきた。

←福井県坂井市HP

読書バリアフリー
ユニバーサルデザイン
SDGs
の観点からすべての生徒に
「やさしい」学校図書館をめざしている。

あてはまる	やや当てはまる	どちらでもない	あてはまらない	無回答	計
40	70	156	437	37	743
5%	9%	22%	59%	4%	100%

令和元年度在校生743人にアンケートを行った。「本は自分で読むよりも、読み聞かせでもらったほうがよい？」という項目では、上記のようになった。
中学生は、自分で読むほうがよいとする生徒が多いだろうと想像していたが、「あてはまる」「ややあてはまる」とした生徒が110人いたことに驚いた。そこで、なぜ読み聞かせでもらうほうがよいのかを検討しながら実践を行った。

読み聞かせでもらったほうがよいということは、生徒が読み手との情緒面のつながりを求めているのだろうと想像できる。しかし、それ以外にも文字に対して「見えにくさ」「読みにくさ」をもつ生徒がおり、そこがこの数値につながっているのではないかと考えた。

「読む」または「書く」に難しい困難がある小中学生（文部科学省平成24年）についての データをみると

ひらがな　読字 0.2%
カタカナ　読字 1.4%
漢字　読字 6.9%
Uno et al.（2009）

とある。日本語の文字を「読む」ということに難しい困難がある小中学生が、8.5%ということになる。本校の「本は自分で読むよりも、読み聞かせでもらったほうがよい？」というアンケートに対して「あてはまる」「ややあてはまる」とした生徒が110%であり、難しい数字ではないことからも、やはり学校図書館においても「読み」の支援を行う必要があると考えた。

02
「一人一人」の読書ニーズを探る
読書もバリアフリーをめざそう

生徒の隠れた読書ニーズを探る

読書ニーズに応える取り組み

NDC案内表示のフォントを変える

本校図書館内の案内表示を再検証した。フォントが明朝体や、教科書体など様々なもので書かれていた。そこで、「見えにくさ」を感じている人が読みやすいとされる UD（ユニバーサルデザイン）体を利用したものに変更した。さらにルビを打つことにした。

リーディングトラッカー

リーディングトラッカーとは、読みたい行を重ねて読めるように、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助具である。中央の透明部分には何色かあり、その生徒自身が活字を見やすい色を選択することができる。

大活字本

以前より大活字本は常置していた。貸出冊数は1年に平均1冊であるが、一年生の図書館利用オリエンテーションで、大活字本とはどういうものかを紹介していくことにした。これにより、学校図書館は、一人一人の個別のニーズに寄り添っていることを発揮することができている。

読み聞かせ

まず、中学生に対しての読み聞かせではどのようなものだろうと、議論はどうしていけばよいのかなど研修を行うことにした。令和元年8月に、福井県立図書館の「読み聞かせ相談部屋」の行事に本校に来ていただき、「中学生を対象とした読み聞かせ」について、いろいろ実践で講演を行った。
中学生への読み聞かせは授業の多くを占めるものであった。中学生への読み聞かせに適したブックリストもいただき、活用させてもらった。

DAISY図書

紙の本では「読みにくい」という生徒がいる。マルチメディアDAISY図書を使用することにした。マルチメディアDAISY図書には、以下のような機能がある。

・拡大文字、白黒反転等 ユーザーの見え方に対応した表示形式が可能。
・音声による読み上げができ、スピードの調整が可能。
読み上げ中にセンテンスに色がつく。

写真資料→

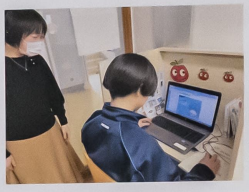
03
プリントディスアビリティと学校図書館
「一人一人」の「本の飢餓」に目を向けて

「りんごの棚」

1993年にスウェーデンで始まった特別な配慮を要する生徒児童のための本のコーナー。

春江中学校では、デイジー図書、LLブック、大活字本、リーディングトラッカーなどを置いた「りんごの棚」コーナーを設置。

図書館だよりや新入生オリエンテーションで紹介。



04
ふくいSDGｓパートナー
学校図書館にできること

「ふくいSDGsパートナー」登録

福井県みらい戦略課では、SDGsの理念に沿いながら、持続可能な地域・社会づくりを全県一体となって進めるため、企業や団体、教育・研究機関、NPO、自治体などの多様な主体が参画する「福井県SDGsパートナーシップ会議」が創設されている。
「ふくいSDGsパートナー」登録制度は、このパートナーシップに参加する企業・団体等を福井県が登録・PRするもので、各パートナーがSDGsの達成に資する活動を主体的に実践するとともに、ネットワークを活用して活動の幅を広げてもらうことをめざしている。本校は、令和2年8月にパートナー登録をした。さまざまな研修会が開かれ、学校とは別の機関と連携をもることができることが魅力であった。コロナ禍により地域間の連携をとることが難しくなってしまった。そのため、他機関の取り組みを知り、本校の取り組みに生かしていくことに活用した。

授業実践など→

05
活動紹介
委員会　地域連携　授業　研修

2023年11月

福井地区教育研究会図書館部会
学校図書館に飾るウエルカムボードを作成した。

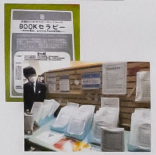
2024年11月

福井地区教育研究会図書館部会
WEBデザイナーを講師としてPOPなどのデザインを学んだ。

2025年8月

福井地区教育研究会図書館部会
石川県立図書館へ研修に。
書架配列や展示の方法を学んだ。

2024年9月
文化祭において図書委員会運営、リーディングトラッカーを作成。
生徒が色によって「見えやすさが違う」と言いながら作っていたのが印象的だった。

2024年6月
図書館に地図を。
地図の数詞を生かして、本が落ちにくいテープを設置。

2019年～
ブックセラピーを図書委員会が運営。
生徒のための状態に「効く」図書を選書し「おくすり袋」に入れて貸し出した。